

2024年6月28日
旭川地区バスケットボール協会 U12部会
技術普及委員長 数村 勇樹
(文責 矢野 寿典)

2024年度 当麻大会 総評

GOOD (よかった, 続けてほしいことなど)

〈オフェンス〉

- ・力強いドライブの攻撃が多くなり、ファールをもらいながらシュートを決め切る力がついてきた
- ・接戦の試合展開の中で勇敢に戦う強い気持ちが出ており、チーム一丸となって戦っていた
- ・片手で巻き込むリバウンドなどハンドリングが向上してきた

〈ディフェンス〉

- ・自分で判断し、コートの中で動ける選手が増えてきた

BAD (課題など)

〈オフェンス〉

- ・スペースのないところにドライブし、囲まれたり、止まれずに転んだりしていた
- ・ドリブルの突き出しやストップ時(ピポット)のトラベリングと、高いドリブルにより、フロントチェンジの時にイリーガルドリブルになっていた

〈ディフェンス〉

- ・ドライブ時のショットに対するDFで、手を挟む(下げる)事でファールとなっていた
- ・ボールウォッチになり、自分のマークマンを捉えることができず、エリアだけを占めている場面があった

NEXT (今後に向けての改善点など)

- ・スペースを見ながら、意図をもったペイントアタックやアタック後のキックアウトなど適切な判断力を向上させていきたい
- ・正しいマンツーマンの基本となる、ボールマンDFは1.5mの距離を最も離れた距離とし、シュート・ドリブル・パスを制限できるよう1on1の指導していく必要がある
- ・感染症の心配も少なくなり、一日に2試合が行われるため、2試合を全力で走りきれる体力と速さを身に付けていきたい
- ・相手が下がっているなら外からのショットを選択し、スペースがあるならドライブするなど、DFやスペースの状況からプレーを判断すること。また、ゲームの流れから、早めにショットに行くべきなのか、ゆっくり攻めるべきか、じっくり守るべきか、ボールを取りに行くためにタイトに守るべきかななどを考える(24分間をマネジメントする考え方)

マンツーマンについて

JBA・HBAからの通達を基に正しいマンツーマンを行う事で、チームの勝利だけに囚われず選手の将来を考えた「育成マインド」の観点でその土台作りとして取り組む方針を考慮しながら、今大会は試験

的に、マンツーマンコミッショナーの焦点を3点に絞り、判断する事とした。

・1つ目は、ボールマンにしっかりとついていくか。

→当初からマンツーマン規則にある、ボールマンに対して1.5メートル以内の距離で守る。

・2つ目は、選手がマークマンをしっかりと捉えているか。(マッチアップ)

→指・声・視線等を使い、ハッキリと分かるようにする。

・3つ目は、ボールや選手の動きに合わせて動いているか。

→ボールの移動に対して、DFも移動できているか。例えば、選手がコーナーから逆サイドコーナーへ、スウィングした際に、DFもその動きに合わせて動いているかなど、確認する。

この3点が明らかに守られていない場合、指導者に伝え、改善が無い場合旗を上げるようにしました。以前までは、能力の高い選手が危険箇所に対応しすぎる事でゾーンDFと判断される事が多かったが、始めのマッチアップ状況やローテーション(マッチアップの修復)を見て、「意図的・組織的に不正である」と判断した場合についてのみ、旗の対象としました。

昨年度からマンツーマン規則がU15と同様となり、*トラップの3要件は廃止になりましたが、U12世代で正しいマンツーマンDFを身に付けることは引き続き重要な課題である。目先の勝利のみに囚われるのではなく、選手一人一人の成長を喜び、そして、中学・高校へと次のステージで輝けるよう「育成マインド」をもって地域全体で後押しして行きたいと思えます。

最後に選手が伸び伸びと思いついたプレーをしているチームが多くなった印象を受けました。試合だけではなく、普段の練習からインテグリティの精神(誠実・真摯・高潔)に基づいた指導がなされている賜だと思えます。これからも選手が伸び伸びと思いつきバスケットボールを楽しめるよう、指導者や育成会が一体となり、より良い環境づくりを目指して頑張りたいと思えます。

以上、今大会の総評とさせていただきます。

*廃止されたトラップの3要件

I) ドリブルが行われているとき、またはドリブルが終わったとき。

II) パスが空中にある間に移動できる距離で、パスを受けた瞬間にトラップを成立させることができるとき。

III) 自分のマークマンとボールをコントロールしているオフェンス側プレーヤーとの距離が2~3mで、移動が容易にできるとき。